

01	名古屋	日比野中学校	コ ギ エ リ ナ 名前 小 木 英 梨 奈
分科会番号	3	分科会名	社会科教育(中学校)

研究題目

社会のあり方を考えることができる生徒の育成 ～「私」の問いを起点とした夢中で探究する社会科学習を通して～

研究要項

1 はじめに

現代社会は、グローバル化の進展、国際情勢の変化、人口減少・少子高齢化、生成AIをはじめとするデジタル技術の発展など、社会を取り巻く課題が大きく変化し、人々の価値観も多様化してきている。そのような社会を生徒一人一人が自分らしく生きていってほしい。そのために、社会で起きている事象を社会的な見方・考え方を自ら働かせて捉え、多様な立場や価値観を踏まえながらよりよい社会のあり方について考察する力を身に付けさせたい。そのような力をもった生徒を育てることは、主権者としての社会参画意識を高め、社会への関わり方を考えることにもつながると考える。

本校の生徒は、教師から与えられた課題に対して自分の考えをもったり、自分の考えを他者に伝えたりすることができる生徒が多い。だからこそ、現代社会にみられる事象や答えが一つではない課題に対して、自分の興味や関心に応じて問いを立て、社会的な見方・考え方を働かせながら探究し、自分の考えを磨いていく経験を積むことができれば、より主体的に社会のあり方を考える姿につながると考えた。そこで、本研究では、生徒が自分なりの「私」の問いを立て、社会的な見方・考え方を働かせて探究する中で、社会のあり方を考える際の根拠となる概念的知識を獲得できるようにする。さらに、探究の成果を他者と共有し、自分とは異なる見方・考え方と出合うことを通して、自分の考えを再考し、よりよい社会のあり方について考えることができるようにする。以上を踏まえ、目指す生徒像を次のように設定した。

【目指す生徒像】

獲得した概念的知識を活用し、社会のあり方を考えることができる生徒

2 研究を進めるにあたって

目指す生徒像に迫るために、以下の二つの手立てを設定する。

(1) 「私」の問いから概念的知識を獲得・活用する学習段階の設定

自らの興味・関心をもとに、社会的な見方・考え方を働かせて「私」の問いを立て、考察したり構想したりする探究的な学びを通して、概念的知識を獲得・活用することができるようにする。社会科学習における探究的な学びでは、自ら問いを立て、問い続ける際に社会的な見方・考え方を働かせることが不可欠である。あわせて、探究の途中経過や成果を他者と共有することで、自分が獲得した概念的知識を自覚したり、新たな見方・考え方を得たりすることにつながると考える。そして、それらを活用して自分の考えを再考することで、よりよい社会の実現のために必要な政治をより深く考察・構想することができると思う。以上を踏まえ、学習段階を「捉える」「考える」「つなぐ」の三つに整理した。【資料1】

段階	捉える	考える	つなぐ
学習活動	資料をもとに、 地理的・歴史的な見方・考え方 を働かせた「私」の問いを立て、具体的な知識を獲得する。	自分が興味をもった政治的課題を選択し、 現代社会の見方・考え方 を働かせた「私」の問いを立て、探究する。具体的知識を比較・関連付けて概念的知識を獲得する。導き出されたいくつかの概念的知識を用いて、探究のテーマに対する自分の考えをもつ。	他者と考えを共有し、他者の考えにふれることで、様々な概念的知識の中でも自分が大切にしたいもの（中核的概念）を明らかにする。そして、中核的概念に関する新たな「私」の問いを立て探究し、自分の考えを再考する。

【資料1】三つの学習段階

(2) 「目指す姿」と「具体的なアクション」の明示

社会のあり方を考える姿は、単元末だけに現れるものではなく、獲得したいいくつかの概念的知識

を活用して多面的・多角的に考察したり、現代社会にみられる課題について公正に判断したりするなど学習活動全体を通して随所に現れると考える。そこで、単元のはじめに、単元全体で身に付けたい資質・能力である「目指す姿」とその姿に近付くための「具体的なアクション」を明示する【資料2】。これにより、生徒が目指す方向を意識し、概念的知識を活用して考察したり判断したりすることができるようにする。また、目指す姿と具体的なアクションは、形成的な見取りとフィードバックに活用するため、学習段階に応じてその都度強調する姿やアクションも示す。そうすることで、すべての生徒にとって、「できそ

「現代の民主政治」で目指す姿（身に付けたい力）	
目指す姿	具体的なアクション
① 問いを続ける	□自分が「面白い！」と思った資料から「私」の問いを立て、探究を始める。 □問いを探究する中で、新たな問いを見つけて問い続ける。
② 資料を活用する	□その資料は、教科書や動画にある「事実」を踏まえているか、確認をする。 □数ある情報のうち、「私」の問いに関係が深いものや探究のテーマの考察に必要なと思う情報（＝みんなの考えの理由となる根拠）を選ぶ。
③ 多角的に考える	□見方・考え方を働かせて、様々な立場（人）の目に見えないもの（願い）を考える。 □様々な立場の中で、自分はその立場のことをよく考えているか、なぜ関心が向いているのか、を考える。
④ 多面的に考える	□見方・考え方（効率、公正、個人の尊重など）を側面として、比較して考える。 ※見方・考え方は、歴史（誰にどんな【影響】【因果関係】）、地理（外国ではどうか【他地域】）も含める □「側面」のよさ・課題の中で、自分はその側面のことをよく考えているか、なぜ関心が向いているのか、を考える。
⑤ 共感的に考える	□質問することを通して他者の考えに触れ、自分の考えがより良くなるように見直す。 □どのような「立場」や「側面」を意識して考えられているか、どのような「見方・考え方」を使って考えられているか、見直し、説明できる。
⑥ つながりを見つける	□最初・対話・新たな問いの「探究して分かったことすべて」を比較して、共通する意味や意義などの新たな価値を見つける。（自分とは違う見方・考え方の働かせ方に価値を見出す）→これが【関連付ける】
⑦ 社会を構想する	□見つけた目に見えないものの中から自分が大切にしたいと思うものを使って、探究のテーマについて考える □よりよい社会をつくるために、何ができるか（現代社会の見方・考え方を働かせた上で実現可能かどうかを吟味して）、自分の考えをもつ。

【資料2】目指す姿と具体的なアクション

う」を選択することにつながると考える。教師は、形成的な見取りとフィードバックとして、机間指導をしながら、個々やグループの学習状況を見取り、具体的なアクションに照らし合わせて、「どの程度上手くいっているか」をフィードバックしたり、「どうしたら上手いききそうか」という見通しがもてるような指針を示したりする。生徒は、毎時、具体的なアクションをセルフチェックし、「どの姿に近付けたか」を確かめたり、「次はどのアクションに取り組もうか」と次時の見通しをもったりすることで、学習の自己調整を行うことができると思う。このように自他による見取りとフィードバックを通して、生徒が概念的知識を意識的に活用し、自分の考えを再考しながら社会のあり方を考えることができるようにする。

3 授業実践について

- (1) 対象 中学3年生（145名）
- (2) 単元 公民的分野「現代の民主政治」（12時間完了）
- (3) 単元の意義

本単元は、主権者としての政治参加のあり方について、多面的・多角的に考察・構想し、表現できるようにすることを目標としている。

3年間で身に付けた地理的な見方・考え方と歴史的な見方・考え方を働かせて政治に関する様々な事象や課題を捉えた上で、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義といった現代社会の見方・考え方を働かせて探究する中で概念的知識を獲得・活用し、よりよい社会を実現するために必要な政治を考察する。その考察を通して、主権者としての政治参加のあり方を多面的・多角的に構想することが、よりよい社会のあり方を考える姿につながると考える。

(4) 単元計画 ※①は時数、主①は目指す姿を表す

段階	学 習 活 動	【具体的なアクション】と【評価項目】
捉える (4時間)	【探究のテーマ】よりよい社会をつくるために必要なのは、どのような政治だろう？	
	① 教師が選定した政治の具体的な知識に関連する資料（「政治ウォッチング」）を見て、気付きや疑問を出す。 ※ 「政治ウォッチング」の資料 - a 高校授業料の無償化 - b オーストラリアの選挙投票率 - c 参議院議員選挙の新勢力 - d オーストラリアSNS禁止法案 - e 同性婚認めないのは違憲 ② 自分が「知りたい!」と思った「政治ウォッチング」に関する気付きや疑問からキーワードを絞り、「なぜ?」「どのように?」などの型を使って、社会的な見方・考え方を働かせた問いをたくさん立てる。 ③ 立てた問いの中から、「私」の問いとして探究したいものを一つ選ぶ。 選択した「私」の問いについて探究する。まず、関係がありそうな資料（教科書本文、図表、NHK for school の動画など）を選択して、分かったことをまとめる。 ④ 「私」の問いの探究を進める。 ※ 適宜、④の途中経過を学級全体で共有し、具体的な知識を整理する。次の「私」の問いを選択したり、新しく立てたりして探究を進める。	主①：資料に対して、「気付きや疑問」を出している。 主①：自分が「面白い!」と思った資料から、地理的・歴史的な見方・考え方を働かせた問いを立てて探究している。 主①：「私」の問いを立て、問い続けている。 主②：資料同士を比べて、関係の深い資料を見つけている。 主②：資料から情報を読み取り整理している。 主③：自分がどの立場で考えているか整理している。 主④：民主政治の特色を複数の側面で考えられているか整理している。 主⑤：発表や質問による対話を通して、他者の考えに触れ、自分の考えがより良くなるように見直す。 主⑤：自分の考えがより良くなるよう探究している。 主⑥：対話や「私」の問いなどすべての「探究して分かったこと」を比較して、共通する意味・意義や、自分とは違う見方・考え方の働かせ方を知りその価値を見付けたりしている。 主⑦：見つけた概念的知識の中から自分が大切にしたいと思うものを使って、探究のテーマについて自分の考えをもっている。 知：政治に関する具体的な知識を理解している。
	⑤ これまでの成果を共有し、具体的な知識を学級全体で整理する。 ⑥ 具体的な知識を活用して、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義といった現代社会の見方・考え方を働かせて「政治ウォッチング」に関連する政治的課題について考えたい「私」の問いを立てる。その「私」の問いについて、政治的課題の解決策や「よりよい社会のために必要な政治」を探究する。 ⑦⑧ ⑥で分かったことを比較したり関連付けたりして自分の考えをもつ。 ※ 適宜、必要に応じて仲間と対話しながら探究を続ける。	主①：資料に対して、「気付きや疑問」を出している。 主①：自分が「面白い!」と思った資料から、現代社会の見方・考え方を働かせた問いを立てて探究している。 主①：「私」の問いを立て、問い続けている。 主②：資料同士を比べて、関係の深い資料を見つけている。 主②：資料から情報を読み取り整理している。 主③：自分がどの立場で考えているか整理している。 主④：民主政治の特色を複数の側面で考えられているか整理している。 主⑤：発表や質問による対話を通して、他者の考えに触れ、自分の考えがより良くなるように見直す。 主⑤：自分の考えがより良くなるよう探究している。 主⑥：対話や「私」の問いなどすべての「探究して分かったこと」を比較して、共通する意味・意義や、自分とは違う見方・考え方の使い方を知りその価値を見付けたりしている。 主⑦：見つけた概念的知識の中から自分が大切にしたいと思うものを使って、探究のテーマについて自分の考えをもっている。 思：具体的な知識を比較したり、関連付けたりしている。
	⑨ 探究の成果を比較したり関連付けたりして、「よりよい社会のために必要な政治」を考察する。 ⑩ ⑨でまとめた自分の考えを発表し合う。「いいね」や「質問」を通して、次時の探究の方向性を探る。 対話を踏まえ、各自で、「よりよい社会のために必要な政治」を更に構想するため次時に探究したい追加の「私」の問いを立てる。 ⑪ 前時で立てた追加の「私」の問いを探究する。 ⑫ すべての「私」の問いの探究を踏まえ、現代社会の見方・考え方を働かせて「よりよい社会のために必要な政治」を構想する。 単元全体のふり返しを行う。	主①：資料に対して、「気付きや疑問」を出している。 主①：自分が「面白い!」と思った資料から、見方・考え方を働かせた問いを立てて探究している。 主①：「私」の問いを立て、問い続けている。 主②：資料同士を比べて、関係の深い資料を見つけている。 主②：資料から情報を読み取り整理している。 主③：自分がどの立場や側面を考えているか整理している。 主④：民主政治の特色を複数の立場や側面に関連付けて整理している。 主⑤：発表や質問による対話を通して、他者の考えに触れ、自分の考えがより良くなるように見直す。 主⑤：自分の考えがより良くなるよう探究している。 主⑥：対話や「私」の問いなどすべての「探究して分かったこと」を比較して、共通する意味・意義や、自分とは違う見方・考え方の使い方を知りその価値を見付けたりしている。 主⑦：見つけた概念的知識の中から自分が大切にしたいと思うものを使って、探究のテーマについて自分の考えをもっている。 思：探究の成果をもとによりよい政治について社会的な見方・考え方を働かせて表現している。

4 実践の様子

捉える段階（第1～4時）

第1時で生徒Aは、「政治ウォッチング」の資料を見て五つの資料すべてに気付きや疑問を出していた。中でも「オーストラリアの選挙投票率」の資料に対して、「なぜ国によってここまで差が出るのか」という疑問を抱いていた。そこから、歴史的な見方・考え方を働かせて「日本の投票率がオーストラリアなどと比べて低い原因は？【因果関係】」という「私」の問いを立てた【資料3】。

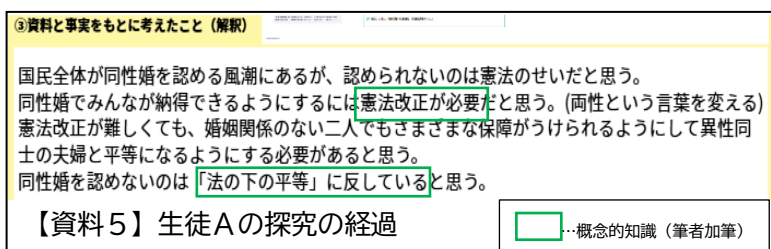
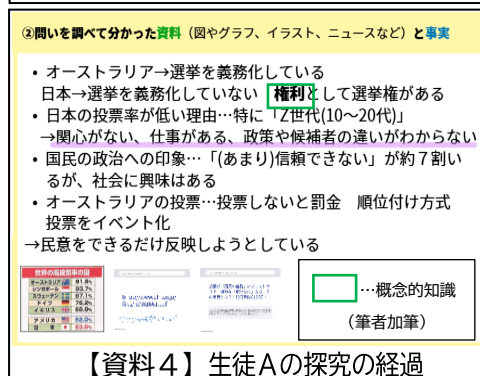
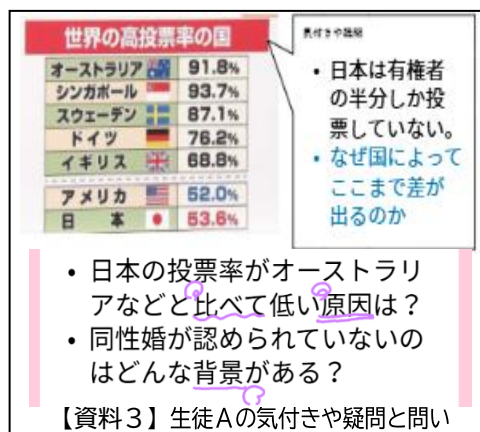
第2時から第4時にかけて必要な情報を教科書やインターネット、タブレット内の資料などを用いて集め、その事実をもとに自分なりの解釈を加えた。探究する中で生徒Aは、オーストラリアと比較して「日本の選挙は権利だから政府が国民から信頼されることが必要」だと考え、政治における＜個人の尊重＞という概念への理解を深めていた【資料4】。

考える段階（第5～8時）

生徒Aは、第1時でもともと立てていたもう一つの「私」の問いではなく、探究の中で生まれた新たな疑問「国民の自由をどこまで奪っていいの？」を新たな「私」の問いとして探究を進めていった。「政治は国民の自由を奪う必要がない」と、さらに＜個人の尊重＞という概念への理解を深めていた。これは、オーストラリアと日本の比較から生まれた理解であり、＜個人の尊重＞の概念をより広く適用して「④多面的に考える力」を達成できるように、生徒Aに「他の国や事例でも当てはまるかな？」とフィードバックした。

より多くの生徒が多面的に考えられるよう第6時では、探究してみたい政治的課題を追加してみようと教師が全体に指示を出した。生徒Aは前時までで＜個人の尊重＞という概念を深めていたため、「高校無償化をする・しないという対立の原因は何だろう？【対立と合意】」と、現代社会の見方・考え方を働かせてさらに新たな「私」の問いを立てた。探究の際には、高校無償化のメリット・デメリットを子どもや親など様々な立場に注目して考察していた。「子どもがいない人にとって高校無償化のための税金は無駄」「高校無償化は公正ではない」と解釈し、＜公正＞という概念を強調していた。その結果、生徒Aは、第7時の終末に「効率と公正を使って考えることができたから、それを使って同性婚についても考えたい」と自分の学習を振り返り、次時の見通しをもっていた。

第8時で、生徒Aは、「同性婚に対して納得できる合意は何だろう？【対立と合意】」という現代社会の見方・考え方を付加した「私」の問いについて、さらに探究した。歴史的な見方・考え方を働かせて、同性婚が認められていない【背景】や同性婚が認められることの【影響】を調べ、「同性婚が認められないのは憲法のせいで、同性婚でみんなが納得できるようにするためには憲法改正が必要だと思う」「同性婚を認めないのは『法の下での平等』に反している」と解釈した【資料5】。第8時においても、＜個人の尊重＞という概念が強調されていた。



つなぐ段階（第9～12時）

生徒Aは、第9時の時点では「捉える」「考える」段階において理解を深めた＜個人の尊重＞という概念的知識を活用して考察し、探究のテーマについて「すべての人に平等で、国民に自由のある政治」という考えをもった【資料6】。これらの記述について教師が「政治には人権を守ることが必要なのかな？」と問うと、「政治の最優先が人権を守ることだと思う」と答えた。

第10時では、投票率から探究を始めた生徒Bと参議院議員選挙の資料を基に政権交代から探究を始めた生徒Cと対話をした【資料7】。生徒Bの「効率的に投票率を上げるために日本も義務制にしたほうが良いと思う」、生徒Cの「透明性があり国民が関われる政治が必要」という意見等から、生徒Aは、投票の義務制が本当に効率的かを再考し、「日本の政治の場面では効率と公正はどのように両立できるだろう？【効率と公正】」という追加の「私」の問いを立てた。教師が『日本の政治』を具体的にどのような場面かを考えるとよいと思う」とフィードバックすると、『日本の政策・法律の決定』の場面では効率と公正はどのように両立できるだろう？』という問いに変更した。

そして、第11時で生徒Aは、「政治ウォッチング」すべての政治的課題について、何が＜効率と公正＞につながるのかという観点で捉え直し、第12時では捉え直したことを踏まえ、「場面によって効率と公正のどちらを取るのか考える必要がある」と構想し直していた【資料8】。

【テーマに対する自分の考え】
よりよい社会のために必要な政治とは、①すべての人を平等に扱うこと（男女という考えや納税などに差ができてしまうと国民からの反発が生まれる）②国民に自由を与えること（オーストラリアのように厳しい義務を増やしてしまうと国民の生活は苦しくなってしまう、より反発を生む）
→①②をすることで、国民の信頼を得られ、そうすると選挙に行く人が増えたり、国の政策に賛成する人も増えるので国と国民どちらにとってもいい影響が出ると思う

【資料6】第9時における生徒Aの探究のまとめ ——— 概念的知識（筆者加筆）

【資料7】生徒Aのグループでの対話

【テーマに対する自分の考え】
よりよい社会のために、政治には、①すべての人を公平に扱う（必要な人に必要なサポートをすることで国民の納得を得られる）②国民の声を聴く（国民の意思に反して自由を制限したり、無意味な政治ばかりしていると反発や無関心な人が生まれる）こととともに、政治につき込むべきお金・抑えるべきお金を判断したり、誰かが損をしていないかを考えたりするなど、場面によって効率と公正どちらをとるのかを考えることが必要である。

【資料8】第12時における生徒Aの構想のまとめ直し（色の薄い字は生徒が付け足した部分） ——— 概念的知識（筆者加筆）

5 実践のまとめ（○：成果 ●：課題）

(1) 「私」の問いから概念的知識を獲得・活用する学習段階の設定

- 複数の生徒が「私」の問いの探究成果を構想に結び付けており【資料9】、社会的な見方・考え方を働かせた「私」の問いを複数立てて探究するという学習活動は、概念的知識を獲得・活用する上で有効であった。

	歴を働かせた「私」の問い	地を働かせた「私」の問い	関を働かせた「私」の問い	「私」の問いの合計	獲得した概念的知識
生徒A	1 (因果関係) 「日本の投票率がオーストラリアなどと比べて低い原因は？」	1 (他地域との比較) 「日本とオーストラリアの選挙方法の違いは？」	3 (個人の尊重1/対立と合意2) 「国民の自由はどこまで奪っていいの?」「高校無償化をする・しないという対立の原因は何だろう?」「同性婚に対して納得できる合意は何だろう?」	5	個人の尊重/民主主義/持続可能性(効率)/公正
生徒D	3 (背景1/影響2) 「なぜ同性婚が認められないのか?」「高校無償化は少子化対策になるのか?」「同性婚を認めることで少子化は進む?」	0 (なし)	1 (個人の尊重) 「同性婚を認めるためにはどのような方法があるのか?」	4	個人の尊重

【資料9】生徒Aと生徒Dの問いと概念的知識の数

- 第9時で探究の成果を比較したり関連付けたりして「よりよい社会のために必要な政治」を考察していたが、もっと早い段階で「考えたい」と言う生徒がいた。働かせる見方・考え方のバリエーションの多さは深い考察に直結するため、生徒一人一人のペースで考察したり「私」の問いを磨いたりすることができるようにすることは、より概念的知識を獲得したり活用したりすることにつながる。初めにたくさんの「私」の問いをもつ生徒にとってはまとめた考えを共有する機会をより多くもつことができ、「私」の問いの設定が難しい生徒にとっては他者からヒントを得て探究につなげることができ、一つずつ「分かった!」を味わわせることができると考える。

(2) 「目指す姿」と「具体的なアクション」の明示

- 「私」の問いを探究していく中で、生徒Aのように「男女の平等」「税の平等」「国民の意見に寄り添う」など「④多面的に考える力」の達成を目指してほとんどの生徒が様々な概念的知識を活用して考察する姿につながった【資料10】。「目指す姿」「具体的なアクション」を明示したことで、概念的知識を活用して考察したり判断したりすることにつながったと考える。また、生徒Aのように「場面によって効率と公正のどちらを取るのか考える必要がある」のように「⑥つながりを見つける力」を達成した生徒は、獲得した概念的知識を比較したり関連付けたりして「⑦社会を構想する力」も達成することができた。

目指す力	第2時	第8時(対話前)	第12時	
④多面的に考える	○3人	○10人、◎11人	○14人、◎17人	※ ④の力は、いくつかの概念的知識を使って考察している生徒を○、その中でも具体と抽象を行き来してより深い考察ができていた生徒を◎とした。 ※ ⑥の力は、比較・関連付けができていた生徒を○、より多く比較・関連付けができていた生徒を◎とした。 ※ ⑦の力は、⑥の力を生かしてよりよい社会へ自分の考えをもつことができた○、自分が大切にしたいと思う概念(中核的概念)を使っていたら◎とした。
⑥つながりを見つける	○0人	○5人、◎0人	○21人、◎10人	
⑦社会を構想する	○0人	○5人、◎0人	○21人、◎10人	

(○…達成、◎…高いレベルでの達成)

【資料10】1学級(33人)における「目指す力」の見取り

- 生徒が探究の途中で多様な考えに触れ、自らの構想を再考する機会が十分ではなかった。第6～7時で、生徒Aが「授業料無償化のメリット・デメリットは何だろう?」という「私」の問いを立てた生徒Eと出会い、「授業料に対して使えるお金も限られているので、それを無駄なく使うことが大切。すべての人を無償化にするのではなく、条件を設けると効率的で公正になる」という現代社会の見方・考え方を働かせて「効率と公正は条件を設定することで両立できるのではないか」と考察した生徒Eの解釈に触れることができていたら、生徒Aの構想は、さらに深まっていたかもしれない。対話前の第8時と対話後の第12時の見取りからも、対話の際に発揮されやすい「目指す姿」の「⑤共感的に考える力」の達成が「⑥つながりを見つける力」につながると考える【資料10】。そのため、自分とは違う考えに触れ、自分の探究を批判的に考察することができるよう、「つなぐ」段階だけでなく、「考える」段階においても対話する機会をもてるようにすることで、中核的概念の獲得やより深い理解につながると考える。

6 今後に向けて

本実践の次に行った経済単元の最初に「共感的に考える力」の「具体的なアクション」を生徒同士で対話した。生徒Aは「自分とは別の視点から質問し合えるとよい」、生徒Bは「なぜその立場を選んだのか気になる」と話していた。学級全体で共有し、経済単元における「目指す姿」の「具体的なアクション」は、「相手の考えに『いいね』しつつ、『自分はこう考える』を伝える」「『なぜその立場に注目したの?』『なぜその見方・考え方をしようと思ったの?』などを質問する」と整理し直した。今後も「目指す姿」を生かし、多くの生徒がよりよい社会を構想できる授業を考え続けていきたい。